8 の付く日は、ハチ公前広場へ



ハチ公への誓い

活動を始めたきっかけには、少し時間をさかのぼる必要がある。

2009年、当時サラリーマンだったチーム渋谷888の中村さんは、異業種交流会で出会った人と同郷・同世代という縁から意気投合し、イエローハット創業者・鍵山秀三郎先生が始めた「掃除に学ぶ会」に誘われることになった。なかなか朝の活動に参加できずにいたが、同年12月、ようやく初参加。そこで、鍵山先生に一対一でお掃除の手ほどきを受けるという、ラッキーな体験をする。

「箒をね、道路のへりのところに立てるようにしてこうすると、土が綺麗に取れるって。約一時間みっちりついて教えてもらって、もう感動しちゃって」

以来、月一回の朝の清掃活動に熱心に参加するようになった中村さん。ただ、朝の活動はサラリーマンには参加しにくい。「夜やろう」と思い立ち、2013年に港区新橋のSL広場で清掃を始めた。2016年10月、渋谷ハチ公広場の喫煙所廃止のニュースをみて、現地に見に行ったその光景に、絶句した。

「喫煙所がなくなったのに、吸ってポイ。植え込みに10メートルくらい、吸い殻の山が続いてた。ほんと、ひどかった」

中村さんには、この場所への特別な思いがある。父親は大正11年生まれで、その翌年に生まれたハチ公に実際に会っているという。「ハチ公の銅像を見るだけで泣けてくる。ふざけんじゃないと。汚すなと、思ったんです」

「8」が並んだ理由

中村さんはすぐに動いた。渋谷区長に直接会い、清掃道具の貸し出しとごみの捨て場所を相談し、渋谷区のロッカーに保管された清掃道具を使える環境が整った。

「8の付く日」「午後8時」「ハチ公広場だから8。」──名前はすぐに決まった。「チーム渋谷888（はちはちはち）」

2017年1月28日、参加者2名でスタート。初回の清掃で集まった吸い殻は、ちりとり3つのうち2つを埋め尽くすほどだった。



活動300回記念（10/8）

変わったこと、変わらないこと

あれから9年。吸い殻のポイ捨ては当時と比べると明らかに減った。「それは渋谷区の努力ですよ」と中村さんは言う。一方で、全体的なごみのポイ捨ては「正直、変わっていないことの方が多い」とも。渋谷区がポイ捨て罰金2,000円の条例を施行した翌月にも、清掃で集まるごみの量はほとんど変わらなかった。

「悔しいですね。もうとっくにごみのポイ捨てなくなって、我々の活動は卒業……としたかった。残念ながらまだそうなっていない」

それでも、活動を続けてきたから見えてきた景色がある。清掃中、外国人旅行者が「捨てさせてもらっていいですか？」と声をかけてくることがよくある。「9割は外国人ですね。日本人もたまに来てくれて、嬉しい」。道具を持って一緒に掃除を始める人もいれば、ごみを渡して「ありがとう」と去っていく人もいる。

人が動けば、街も変わる──その手応えが、中村さんを動かし続けている。



ハードルは、低いほどいい

「自由に来て、道具もお貸しして、軍手あげて。たった30分だから」と中村さんは言う。参加者はその日集まった人が主体で、事前登録も名簿もない。会社帰りにふらっと来て、活動後は「終礼」と呼ぶ輪になっての一言感想会で締めくくる。その気軽さが、9年間で延べ2,900名という数字につながってきた。

活動はSNSピリカで記録・報告している。ピリカとはアイヌ語で「きれい」を意味すると聞き、「まさに我々の活動の象徴みたいな言葉だ」と中村さんは目を輝かせた。

渋谷の街をきれいにしたい、という気持ちがある人は、きっと多い。8の付く日、夜8時。その場所に行ってみることが、最初の一歩だ。